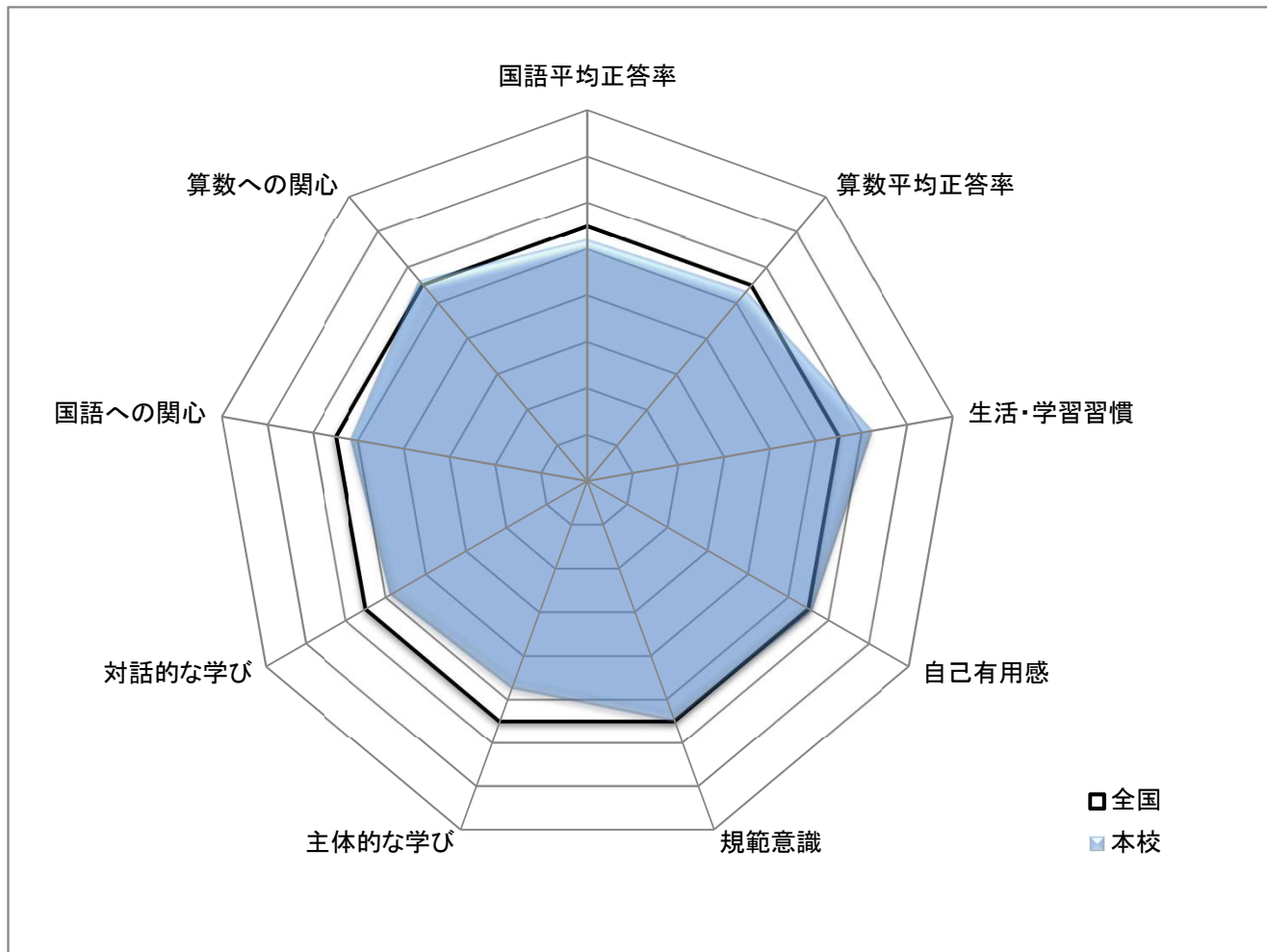


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

国語では、東京都や全国の平均正答率より下回っている。特に思考力・判断力・表現力等に関する問題の中で、書くことを中心とした問題の正答率が低い。漢字に直す問題の正答率は高く、都や全国を上回る問題もあった。文章構成を考えたり、主語をとらえたりすることに課題がある。

算数では、平均正答率が都や全国よりも下回っているものの、国語ほどの開きはなく、児童の算数への関心も高い。問題によっては都や全国の正答率よりも上回っているものがある。速さに関する理解や、棒グラフから読み取る力は身に付いている。その反面三角形の面積を求め方や文章から立式する力に課題が残る。

生活・学習習慣に関する質問に対して肯定的な回答が多い。自己有用感も高い。

《授業改善のポイント》

書かれている文章の意味を考えながら読み取る。そのために、国語の授業では、言葉の意味を調べたり、その言葉を使った短い文章を作らせたりする学習を定期的に取り入れる。算数では、ただ立式をするだけでなく、どうしてその式になるのかを、自分で言ったり、ノートに書いたりする活動を必ず行う。児童が文章をよく読まないこと間違ってしまうことを意識できるようにする。

国語の物語文の学習では、動作の主語が誰なのかを明確にしながらか文を読み取るように指導していく。

国語でも算数でも、基礎的な言葉や漢字の理解、四則計算の理解が高まるように、繰り返し取り組む時間を設ける。

児童が主体的に学習に取り組むために、児童が興味をひく題材を用意したり、個に応じた学習課

《チャートの特徴》

- 全体を見ると、やや全国の平均値を下回っている項目もあるのだが、おおよそ全国平均と変わらない。
- 国語の平均正答率は、全国の平均正答率に対して3.7ポイント下回っている。
- 算数の平均正答率は、全国の平均正答率に対して2.2ポイント下回っている。
- 生活・学習習慣や自己有用感、規範意識に対する質問項目に対して、肯定的に回答している児童の割合が全国平均よりも高い。
- 主体的な学び、対話的な学び、国語への関心について全国平均よりも下回っている。

《家庭・地域への働きかけ》

「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」「学校の授業時間以外に、どれくらい勉強をしていますか」という質問に対する肯定的な回答が全校を下回る。家庭学習の取り組み方について児童に指導を行い、家庭にも啓発をしていく。SNSの使い方について、家の人と約束をしたことを守っているかの質問に対しても、やや全国よりも守っているという回答が低いので、学校で指導を行い、家庭にも啓発していく。